

「成人した今」

コリントの信徒への手紙一 13章8～13節

聖学院大学 人間福祉学部副チャプレン 左近 豊

今日は、特別に成人を祝う礼拝を行っています。今年度、この学び舎に集う仲間たちの中で成人を迎えた方たちの 20 年を振り返って感謝をささげるとともに、これからの大人として歩んでゆく 1 つ 1 つの生涯に神様の導きと祝福を祈りたいと願っています。二十歳を迎えられた方々、心からおめでとうございます。

まだ成人式を迎えておられない方たちも、すでに成人となられて何年か経つ方たちも、今日は成人ということ、大人になるということに心を寄せて、聞いていただければ幸いです。

聖書にも成人について書かれている箇所があります。ただし必ずしも 20 歳になったから大人になる、20 年生きたから成人したとする考え方ではないのです。例えばキリスト教とともに聖書を信仰の規範とする宗教のひとつであるユダヤ教では、13 歳を特別な年齢として祝っています。聖書が理解できるようになり、物事の判断や、やったことへの責任が取れるようになる年齢として 13 歳を、男はバル・ミツヴァー、女性はバト・ミツヴァーと呼んで盛大に成人を祝うのです。聖書がわかるようになれば大人だ、と。

聖書がわかるようになる、ということは愛が分かるようになるということです。今日読んでいただいたコリントの信徒への手紙はそのことを言っているのです。お手元のプリントをご覧ください。一番最初の書き始めは「愛は決して滅びない」で始まっています。そして、いろいろ大事だけれど廃れてしまったり、一部分で終わってしまうものが出てきて、最後にもう一度「信仰と希望と愛、この 3 つはいつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である」で閉じられます。決して滅びない愛で始まり、いつまでも残る、しかも最大のものが愛である、で終わるのです。その今日の箇所の丁度真ん中へんに「成人した今」はその愛がおぼろげながらもわかるようになったことが述べられているのです。大人になる、ということは聖書が分かるようになる、愛がわかるようになる、ということ。

実は今日の聖書箇所は、キリスト教の結婚式のときにも読まれる箇所の一つです。教会の結婚式では必ず神様と集まった証人の前で、結婚する 2 人が、互いの愛を誓いますが、大事なことは愛を知っているということです。少なくとも聖書が語る愛を、おぼろげにでもわかっていることが大事なのです。

誓いの言葉は具体的です。「あなたはこの人が富める時も貧しい時も、喜びの時も悲しみの時も、健やかなる時も病める時も、共に生きる限り、この人を愛し、敬うことを神と証人の前で約束し、誓いますか」と問われるのです。ここには成人した今、知る愛があります。相手が自分よりも富んでいる、成功している時にもねたまない、やる事がごとく失敗して落ちぶれても見捨てない、見下さない、高ぶらない愛を知る。相手が喜んでいる時にその喜びを自分の喜びにし、悲しんでいるとき、いらだたず、悲しみの傍らに共にあって耐え忍ぶ愛があることを知る。相手が健康な時だけでなく、突然の病を得て、あるいは思いもよらない事故で身体や精神の自由を奪われることがある、心のバランスを崩してしまうことがある。それでも、共に生きる限り、全てを忍び、全てを信じ、すべてを望み、全てに耐える愛を知るのです。

ただ知ることとそのようにすることの間には大きな溝があることも事実です。私たちは何処かでそうありたいと思いつつ、そうできない。相手が成功して喜んでいるのを、心から祝福してあげられないのに気づくことがあります。相手が何かに躓いて落ち込んでいる時に、どこかで優位に立って偉そうなことを言っている自分がいます。相手が健康を崩せば心の奥底で不養生を責めるような冷たさがあることに気づいてしまう。とうに成人したはずなのに、未だに聖書がわかっていない、聖書の語る愛から遠く隔たっている。その現実打ちのめされるのです。魂の幼さ、未熟さに破れるのです。

けれども破れてはじめて目覚めるということがある。外なる堅い殻が破れて内なる新しい命が芽生える種のように。成人した今、幼子のことを棄てた、という言葉はこのことを指しているのだと思います。ある優れた聖書の訳では「だが一人前の者となったとき、幼い子どものことはやめにした」（『フランシスコ会聖書』）とあります。聖書の愛を示されて、自分の稚拙な愛に破れ、その時初めて私たちは幼さを止める、決断をもって新しい方向へと目と心と魂を上げて、今はおぼろげであっても、今は一部分であっても、はっきりと完全に、顔と顔を合わせて聖書の語る愛を知る日がくることを、その愛に生きることを信じ、望むものへと招かれているのです。

成人した今、新しい一步を踏み出したみなさんが、ますます豊かな出会い、中でも神様との出会いを通して、聖書の語る愛との出会いを通して、幸せな人生を歩んで行かれますように祈りを合わせましょう。

2013年1月16日 聖学院大学 成人を祝う礼拝